

記 録

目 次

令和 6 年度教育実践協同研究推進委員会の活動	(103)
2024年度（令和 6 年度）研究会名簿	(105)
研究会活動記録	
国語科研究会	(106)
社会科研究会	(106)
算数・数学科研究会	(106)
理科研究会	(106)
音楽科研究会	(107)
図工・美術科研究会	(107)
保健体育科研究会	(107)
技術科研究会	(108)
家庭科研究会	(108)
英語科研究会	(108)
道德教育研究会	(109)
幼児教育研究会	(109)
養護教諭・教育保健研究会	(109)
特別支援教育研究会	(109)
生徒指導・教育相談研究会	(110)
教育実践協同研究通信（6 年度 1 号～7 年度 6 号）	(111)

教育実践協同研究推進委員会の活動

1. 推進委員会の開催

今年度の推進委員会の開催は1回であった。

第1回推進委員会（対面）

令和6年（2024年）4月19日、第一回教育実践研究推進委員会を開催した。内容は以下の通り。

① 事業内容

- （1）定例研究会
- （2）弘前大学教育学部附属学校共同研究奨励費の募集
- （3）全体会の開催 1月29日（水）（全体会：令和7年度以降の公開研の在り方について、附属4校園の研究についての交流）
- （4）『クロスロード』の編集・発行
- （5）学部・附属教員合同懇親会 第1回協同研5／8の後、パークホテル（主催は協同研）
（担当：小学校 参加36名）

② 組織編制

委員長 宮崎 充治 副統括校長が兼任

副委員長 清水 稔先生

副委員長 野呂 香先生（附中）

協同研通信担当

道德：森本 洋介先生

『クロスロード』の編集・発行担当

美術：佐藤絵里子先生

学部研究推進委員会 委員（2年任期） 教育実践協同研究推進委員会から1名選出

申し合わせ事項の改訂により、今年度より学部選出副委員長が兼任することとし、清水稔先生を選出

③ 公開研

附属学校園が教科のローテーションにより公開研，東北附連を行う。

このローテーションに当たっていない研究会は個別の研究発表，研修会の開催が奨励されている。

- ・公開研実行委員会を置き，各校園校長，教頭とも協同して，公開研を実行する。
- ・4校園共通の課題，校種・教科を越えた課題研究に取り組む。

今年度はスタートカリキュラム／インクルーシブ教育（附属の取り組み）

令和7年度以降の公開研の方向性についても意見交流を行った。

報告事項

研究推進部常設

【組織】統括校長，協同研正副委員長，各附属校園の研究主任・副主任等，必要に応じて招集する臨時委員（課題研究，公開研実行委員等）

公開研実行委員会を置き，各校園校長，教頭とも協同して，公開研を実行する。

研究奨励費について

昨年通り，二期に分けて募集を行う。

研究期間を2年にまたがってとれるようにしている。経費も繰り越せるようなシステムとしている。

（要項に明記された。）

2. 各研究会を中心とした附属と学部・大学院との日常的な連携による研究活動

定例研究会は、5月8日、7月3日、11月13日、11月27日、1月29日の5回を設定した。各会はいずれも原則的には、水曜日の16:00～17:30に行われたが、道德部会等は複数研究会に所属する会員の都合から別の日を設定し、参加がしやすいように便をとった。また、第3回、4回の日程を公開研究会の準備、総括に合わせて行った。

1月29日は全体会とし、令和7年度の公開研の基本方針を決定し、合同で行うことを決定した。

3. 合同公開研究会の開催

令和6年度の公開研は4回目の合同開催、教科限定（道德、算数・数学、家庭科、技術科、図工・美術）ライブでの授業公開、オンラインと対面のハイブリッドで実施した。幼稚園はインクルーシブ教育をテーマに、保育トークを行った。

参加者は261名 内部:177名（学生を含む） 外部:84名

教職大学院院生の補助、ウェルビーイングセンターのアーカイブ撮影が同時に行われた。

4. 「協同研通信」の発行、情報共有

定例研究会の予定と報告を中心に構成し、定期発行5回、臨時に1回の計6回発行した。

5. 研究紀要「クロスロード」の編集・発行

9本の論文の投稿があった。

尚、電子化に伴い出版に関わる費用の削減が行われた。それに伴い、学部からの配分費は令和6年度よりさらに減額して380,000円となった。

6. 弘前大学教育学部附属学校共同研究奨励費の募集（附属4校園運営会議と連携）

15件（前期15件、後期0件）の申請があり、全件採択した。

【その他】

・附属の研究についての倫理規程の検討

他附属の研究倫理規程の状況について調査し、学部の研究倫理規程との関連も探りながら、今年度中に提案をする予定であったが、果たせなかった。

・授業記録・分析・アーカイブ専門委員会の設置が課題とされていた。

次世代ウェルビーイングセンターの主導により、公開研等をリソースとし、授業アーカイブの構築がされはじめた。

2024年度（令和6年度）研究会名簿

国語科研究会	
学部	山田史生
学部	田中拓郎
学部	帆 莉 基 生
学部	市 地 英
小学校	高 橋 憲 子
小学校	葛 西 航
小学校	鹿 内 夏 希
小学校	駒 井 陽 子
小学校	樋 口 薫
中学校	小山田朱美
中学校	今 井 礼 子
中学校	高 杉 胡 桃
教職大学院	三 戸 延 聖

社会科研究会	
学部	大 谷 伸 治
学部	小 岩 直 人
学部	蒔 田 純
学部	高 瀬 雅 弘
学部	小 瑠 史 朗
学部	宮 崎 充 治
小学校	奈 良 諒
小学校	佐 藤 一 幸
小学校	佐々木篤史
中学校	森山智恵美
中学校	工 藤 廉
中学校	武田明日佳
特別支援	矢 口 智 洋
教職大学院	若 松 大 輔
教職大学院	吉 田 美 穂
教職大学院	中 谷 保 美

算数・数学研究会	
学部	伊 藤 成 治
学部	澤 原 雅 知
学部	田 中 義 久
学部	山 本 稔
学部	吉 川 和 宏
小学校	葛 西 康 隆
小学校	一 戸 崇 史
小学校	尾 崎 珠 巳
小学校	赤垣由希子
中学校	八木橋卓矢
中学校	村 上 和 嗣
中学校	奈良岡寛大
中学校	鳴 海 文 彦
中学校	長 内 優 希
教職大学院	中 野 博 之
教職大学院	天 坂 文 隆

理科研究会	
学部	山 本 逸 郎
学部	佐 藤 松 夫
学部	長 南 幸 安
学部	島 田 透
学部	田 中 浩 紀
学部	岩 井 草 介
学部	佐 藤 崇 之
小学校	菅 原 雄 貴
小学校	木 村 智 里
中学校	村 田 正 治
中学校	小 林 和 史
中学校	山 田 暁
中学校	生 田 咲 智

音楽科研究会	
学部	今 田 匡 彦
学部	杉原かおり
学部	朝山奈津子
学部	清 水 稔
学部	小 田 直 弥
小学校	木 村 麻 美
小学校	山 本 絵 梨
小学校	川 村 敏 広
特別支援	鎌 田 麻 里

図工・美術研究会	
学部	塚 本 悦 雄
学部	出 佳奈子
学部	佐 藤 光 輝
学部	富 田 晃
学部	佐藤絵里子
小学校	坂 本 卓 也
小学校	八 嶋 孝 幸
小学校	外 崎 美 佳
中学校	鎌 田 純 平
特別支援	藤田依里子
特別支援	西 川 優

保健体育研究会	
学部	高 橋 俊 哉
学部	上 野 秀 人
学部	益 川 満 治
学部	杉本和那美
小学校	梶 雄 一 朗
小学校	阿 保 秀 歩
小学校	工 藤 理 姿
中学校	工 藤 武 志
中学校	對馬慎太郎
中学校	羽 村 麻 美
特別支援	對 馬 大 成

技術科研究会	
学部	勝 川 健 三
学部	櫻 田 安 志
学部	上之園哲也
学部	廣 瀬 孝
中学校	中 嶋 真 吾
特別支援	工 藤 清 和
特別支援	三 橋 寛 子
特別支援	阿 部 香 織

家庭科研究会	
学部	安川あけみ
学部	李 秀 眞
学部	小 野 恭 子
学部	加 賀 恵 子
学部	谷本愛太郎
小学校	葛 西 信 乃
小学校	小田桐由佳
小学校	菊 地 純 子
中学校	富 本 友 紀

英語研究会	
学部	野 呂 徳 治
学部	A.S.Rausch
学部	佐 藤 剛
学部	土 屋 陽 子
学部	齋 藤 章 吾
中学校	藤 元 公 徳
中学校	三 上 昌 憲
中学校	野 呂 香
中学校	尾 張 至 伸
小学校	田 中 久 絵
小学校	工 藤 麻 乃
小学校	大 野 雅 子
教職大学院	宍 倉 慎 次

道徳教育研究会	
学部	森 本 洋 介
学部	福 島 裕 敏
学部	吉 崎 聡 子
小学校	工 藤 愛 美
小学校	浅 利 善 仁
中学校	佐々木篤史
特別支援	桜田かおる
特別支援	米 持 賢
特別支援	千葉麻奈美
特別支援	鳴 海 愛 子
教職大学院	菊 地 一 文
小学校	片 山 好 弘
中学校	樋 口 薫
中学校	野 呂 香
中学校	羽 村 麻 美

養護教諭・教育保健研究会	
学部	清水真由美
学部	島田美智子
学部	新谷ますみ
学部	原 郁 水
学部	相 馬 優 樹
幼稚園	成 田 梨 佳
小学校	高 橋 千 晶
中学校	齋 藤 安 衣
特別支援	派 谷 ミ カ
教職大学院	川 端 良 介

特別支援教育研究会	
学部	増 田 貴 人
学部	中 山 忠 政
学部	天 海 丈 久
特別支援	大 塚 亮 子
特別支援	西 谷 倫 子
特別支援	三 浦 拓 也
特別支援	山 崎 雄 吾
特別支援	佐 藤 珠 美
特別支援	柏 原 理 紗
特別支援	成 田 宏 太
特別支援	手塚公志朗
特別支援	小 林 航
特別支援	附田翔太郎
特別支援	石 橋 想

幼児教育研究会	
学部	武 内 裕 明
学部	松 本 恵 美
学部	増 田 貴 人
学部	宮 崎 充 治
幼稚園	羽 賀 理
幼稚園	松 山 祐 子
幼稚園	加藤結衣子
幼稚園	竹 内 芳 子
特別支援	花田光佐子
特別支援	有 馬 麻 美

生徒指導・教育相談研究会	
学部	田名場 忍
学部	吉 中 淳
学部	新 川 広 樹
小学校	阿 保 秀 歩
中学校	工 藤 武 志
特別支援	對 馬 大 成
特別支援	渡邊加世子
教職大学院	藤 江 玲 子
教職大学院	村 元 治
教職大学院	甲 田 隆
教職大学院	柴 崎 剛 吉

国語科研究会

成果と課題

今年度国語教育研究会では、主として次の2つを中心に活動した。1つは、国語科授業を通して小学校と中学校の授業づくりの在り方について相互理解を深めること。もう1つは小学校教員、中学校教員、大学教員のそれぞれの視点に立ったものの見方・考え方で教材の読み方の深化を図ること。どちらも得るものが大きく、授業づくりに関する大きなヒントを得ることができた。

次年度は、公開研究発表会で国語科の授業公開が予定されている。さらに連携を深めて研究を推進していきたい。

(文責：田中 拓郎)

社会科研究会

成果と課題

今年度も「小・中・学部間の連携」を柱に位置づけて、研究会活動を進めてきた。第1回目は、目指すべき子ども像について共有した後、附属小・中の教育目標のすり合わせを行った。第2回目・3回目は今年度より附属小・中に赴任した教員の提案授業の報告を踏まえて、その内容について検討を行った。今後も次年度の活動に向けて、小・中・学部間での問題意識の共有と活発な意見交換に努めたい。

(文責：蒔田 純)

算数・数学研究会

成果と課題

今年度は、附属学校園の公開授業において、算数・数学科が授業を公開する年度であった。これに関連して、第1回、第2回の協同研では、公開授業に関する学習指導案を中心に検討を行った。第3回の協同研では、公開授業の実践に関する省察を行った。数学的に得られた結果を踏まえ、さらに問題設定や問題発見など、よりよい数学的活動を展開するような授業づくりを話し合い実践することができた。今後は、こうした数学観や授業観を共有しつつ、よりよい授業実践を継続的に行っていくことが課題である。

(文責：田中 義久)

理科研究会

成果と課題

小・中連携や後期Tuesday実習の充実をはかり、具体的に「物化生地の各領域における小・中接続」や「天気を題材とした中学校1年次の単元開発」についての情報交換を行った。また、学部生の学力の定着や、探究についての研究会に参加した際に得られた内容の報告があった。そのほか、附小全体研の授業内容についての検討や、附中一人一研の授業についての情報交換、日本理科教育学会第63回東北支部大会における発表の再現が行われた。このように、学部と附属学校の双方からの話題提供があり、内容的に充実していた。来年度はさらに、今年度に検討した課題について深めていきたい。

(文責：佐藤 崇之)

音楽科研究会

成果と課題

今年度は、各附属校での実践報告を中心に、音楽教育における課題やそれらの具体的な解決の方法について話し合った。それによって、附属四校園の共通主題である自律についての学びの在り方を模索するとともに、よりよい音楽教育の方向性についての考えを深めることができたと言える。とくに、附属小学校での校内研究会で実施された木村麻美先生による創作の授業は、これまで協同研において研究として積み重ねてきた、リスニングワークによる聴取活動と図形楽譜による創作活動であったが、児童の創造力を活かし、自己肯定感を育むものであることが実証されるものであった。そのような実践をもとに、協同研の場において学びの価値を共通認識できることは、今後の各附属校での実践に生きていくものと考えられる。今後も、協同研という校種を越えて学ぶ場を活かしていきたい。

(文責：清水 稔)

図工・美術科研究会

成果と課題

今年度は、附属四校園合同研究会に当たる年であったため、図工・美術それぞれの公開授業に関する検討会を行った。小学校図画工作科では、津軽の「鬼コ」をテーマとして校内各所で見守る小像を石粉粘土で製作した授業、中学校美術科は立体の制作の導入で粘土を用いてマケットをつくる活動の意義に注目した授業であった。また、1月には特別支援学校での活動成果を発表する展覧会の鑑賞を行った。その他に、学部の教員からは本年度の活動報告や広報が実施された。今後とも校種を超えた連携協力体制の強化を目指し、活発な議論を展開していきたい。

(文責：佐藤絵里子)

保健体育科研究会

成果と課題

今年度は、附属四校園共通の研究主題をもとに各附属学校での保健体育として研究主題を設定し、実践研究を行った。附属小学校では「他者と共に学び合い、運動の楽しさを追究する」を主題とし、「ティーボール」「パラバールン」を、を教材として授業を行った。その成果として、①ルールの特質化、教材選定により運動に対する意欲の向上が見られたこと、②する視点、みる視点、支える視点をもつ場面を設けたことで他者と共に学び合うことで思考の高まりが見られたこと、が挙げられた。課題として児童の学びをより発展させ深めるための手立ての工夫が挙げられた。来年度も引き続き、協同研での意見や情報交換を行い実践研究に取り組んでいきたいと考える。

(文責：杉本和那美)

技術科研究会

成果と課題

今年度は、附属学校園の公開研で公開する授業と題材、カリキュラムについて意見交換、協議、公開授業の振返り、協議を中心に活動を推進した。また、各回の協議では、学部、附属の双方の研究の状況や課題等について情報交換し、相互に理解を深めながら課題を共有することができた。

今後は、本年度の公開研への取り組みを基に、技術科における内容横断的、また、他教科との横断的な学習の在り方、また、特別支援学校における技術科教育の在り方について検討を進めていく予定である。

(文責：上之園哲也)

家庭科研究会

成果と課題

11月の合同公開研究会に向け、共通テーマ「人とかかわりを通して学ぶ」の下、異世代間交流を取り入れた実践研究を進めた。小学校では「2年生の食の課題の解決を目指した1食分の献立を工夫して考え、一緒に食べる」、中学校では「幼稚園訪問でふれあった園児の特徴を踏まえてよりよい関わり方を考え、中学校に招待する」といった、実際の生活の文脈に沿った問題解決的な学習を構想・展開した。幼・小・中が同じ敷地内に隣接するからこそその強みを生かした取り組みができたと考える。小中の系統性を踏まえ、来年度以降もさらにブラッシュアップさせていく予定である。

(文責：加賀 恵子)

英語科研究会

成果と課題

今年度は、小中連携の軸となるCan-doリストや帯活動としてのsmall talkに関して、授業実践報告やブラッシュアップのための意見交換が行われた。実際の授業の様子を共有しながら、生徒・児童の実態に応じて目標や活動内容を検討することで、実情に合わせた合理的な改善が進められた。また、small talkや語彙学習に関する研究発表の共有を通して当該内容に関する理解を深めたり、小中合同授業の検討に基づく連携について議論・検討を行ったりもした。

今後は引き続き、Can-doリストやsmall talkに基づく小中連携について、実践に基づく検討・議論を行っていく予定である。

(文責：齋藤 章吾)

道徳教育研究会

成果と課題

本年度は公開研究会に当たっていたため、年間を通して公開研究会に向けた授業づくりを行った。公開研究会では①価値項目をそろえて小学校と中学校でともに演劇的手法を用いて授業を行う、②中学校3年生の教材を小学校6年生でも使用して授業を行う、という2つの教育方法に着目して授業を設定したことにより、道徳的価値について校種を超えた学び方を考えるという成果を得ることができた。特別支援学校では特に研究授業としては実施しなかったが、ゲスト講師を招いて特別支援教育における道徳教育のあり方を考えた。今年度は小学校・中学校・特別支援とすべての校種の先生方で協同して協同研を進めていくことができたため、今後も継続していきたい。

(文責：森本 洋介)

幼児教育研究会

成果と課題

本年度の幼児教育研究会では、合同公開研に向けた議論を行った他、附属幼稚園の指導計画の様式の検討と議論、公開研以外での保育の公開に向けた取り組みに関する議論など、幼児教育研究の推進に向けた議論が活発に行われた。附属幼稚園での教育・研究機能の充実に向け活動できたことが成果であり、次年度も継続していきたい。今年度は対応した内容の性質から、保育実践に関する研究自体が行われたわけではなかったが、実践の研究を進めることも研究会として求められることであるため、研究会としても議論していきたい。

(文責：武内 裕明)

養護教諭・教育保健研究会

成果と課題

2024年度は、第2～3回は弘前大学で実施される東北学校保健学会における発表内容について、第4回は学校現場で実施するアンケート作成時の留意点について学部教員から話題提供を行った。研究の成果や動向などを情報共有し、それらに関する議論を行うことで学校現場で必要となってくる知識を深めることができたと考える。次年度は、令和9年度の全附連における発表に向けた実践研究について協同研で議論していく方針である。

(文責：相馬 優樹)

特別支援教育研究会

成果と課題

2024年度は、附属特別支援学校教諭からの事例提供による検討(3回)及び学部教員からの話題提供(1回)とで構成された。第2回・第3回的事例提供による検討では、ポスター発表形式が採用され、参加者が複数事例をそれぞれめぐって発表者を中心に議論を深めるようにすることで、実践への反映を意識できるようにした。また検討した事例についてその後の経過報告にもつながった。次年度も引き続き、構成員間の積極的な意見交換を重視して充実した研究会につなげたいと考える。

(文責：増田 貴人)

生徒指導・教育相談研究会

成果と課題

本年度は、附属小・中学校および特別支援学校からの事例提供を受け、事例検討会を3回にわたって開催した。各回では、個別の具体的な支援にかかわる議論だけでなく、第1層支援としての居場所づくりや、第2層支援、第3層支援対象者の早期発見・支援に向けたアンケートなど、生徒指導・教育相談をシステムとして捉えた意見交換を行うことができた。今後の課題として、アセスメントで得られた多くの情報を統合し、効率的に事例検討を進めていくためのフォーマットを提案していくことが挙げられる。

（文責：新川 広樹）

教育実践協同研究通信

No.1 (2024. 4.27)

◆ 協同研委員会より ◆
R6 年度定例研究会の日程

第1回	5/8	水	第3回	11/13	水
第2回	7/3	水	第4回	11/27	水
東北防連	10/31－11/1	木－金	第5回（全体会）	1/29	水
合同公開研	11/16	土			

本年度の協同研委員一覧
委員長:宮崎 充治 副委員長:清水 稔,野呂 香

国語科研究会	田中 拓郎	養護教育・教育保健研究会	相馬 優樹
社会科研究会	蒔田 純	幼児教育研究会	武内 裕明
算数・数学研究会	田中 義久	生徒指導・教育相談研究会	新川 広樹
理科研究会	佐藤 崇之	道徳教育研究会(協同研通信)	森本 洋介
音楽科研究会	清水 稔	特別支援教育研究会	増田 貴人
美術科研究会(クロスロード)	佐藤 絵里子	附属幼稚園	松山 祐子
保健体育科研究会	杉本 和那美	附属小学校	赤垣 由希子
技術科研究会	上之園 哲也	附属中学校	野呂 香
家庭科研究会	加賀 恵子	附属特別支援学校	千葉 麻奈美
英語科研究会	齋藤 章吾		

◆ 5月8日(水) 第1回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:10	教育学部	204 教室
社会科研究会	16:10	教育学部	4 階社会科共通実習室
算数・数学研究会	16:10	附属中学校	第一多目的室
理科研究会	16:10	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:10	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	教育学部	4 階美術教材室
保健体育科研究会	16:10	附属小学校	家庭科室
技術科研究会	16:10	教育学部	1 階 技術科教育演習室
家庭科研究会	16:10	教育学部	201 教室
英語科研究会	16:00	教育学部	301 教室
養護教諭・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:10	教育学部	幼児教育講義室
生徒指導・教育相談研究会	16:10 (5/9)	Teams	—
道徳教育研究会	16:10	弘前大学教育学部	教育科学資料室
特別支援教育研究会	16:10	附属特別支援学校	図書室

◆ 「令和6年度 協同研主催 学部・附属教員合同懇親会」のご案内 ◆

令和6年度協同研主催学部教員・附属教員合同懇親会を5月8日(水)に開催いたします。ご案内の文書を添付しましたのでご確認ください。

以下が案内文へのリンクです。

附属小学校 教頭: 令和6年度協同研主催学部教員・附属教員合同懇親会について

申込フォームは以下のリンクとなります。
https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=EDaYbRS_UGrH_9vO7KB05CTH8kiUQHLo0BTRBWzCzCHURDN1eZTrdWTFbRkFStJHOUICNIBSNvQQONjPTEu

◆ 合同公開研について

今年度も合同公開研を11月16日に行います。今年度は小、中、幼稚園で実施します。教科は算数・数学、図工・美術、技術（中学校のみ）、家庭、道徳の5教科です。この日は公開授業と講演会のみとし、課題研究は以下の項目の通り別日で行います。

・課題研究について

今年度はインクルーシブ研究会が5月30日に開催されますが、非公開となっているため、地域へ公開する研究会を1月開催の方向で検討しています。

スタート・カリキュラムも小さな公開として行う予定です。

◆ 研究推進部常設について

【目的】研究推進部を常置しました。

【組織】総括校長、協同研正副委員長、各附属校園の研究主任・副主任等、必要に応じて招集する臨時委員（課題研究、公開研実行委員等）

公開研実行委員会を置き、各校園校長、教頭とも協同して、公開研を実行します。

◆ 研究奨励賞について

昨年同様、二期に分けて行います。研究期間を2年にまたがってとれるようにしており、経費も繰り越せるようなシステムとしています（要項に明記）ので、積極的な応募をお待ちしています。

◆ 附属の研究についての倫理規程の検討

他附属の研究倫理規程の状況について調査し、学部の研究倫理規程との関連も探りながら、今年度中に提案をする予定で検討しています。

<<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>>
委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 森本洋介 (morimoto@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.2 (2024.6.18)

◆ 7月3日（水）第2回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:10	小学校	未定
社会科研究会	16:10	Teams	
算数・数学研究会	16:10	中学校	多目的室1
理科研究会	16:10	中学校	理科室
音楽科研究会	16:10	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	小学校	図画工作室
保健体育科研究会	16:10	Teams	協同研 保健体育
技術科研究会	16:10	附属特別支援学校	木工室
家庭科研究会	16:10	教育学部	201 教室
英語科研究会	16:10	中学校	メディアスペース3
養護教諭・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:10	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	16:10 (7/4)	附属中学校	図書室
道徳教育研究会	16:30 (6/26)	教育学部	教育科学資料室
特別支援教育研究会	16:10	附属特別支援学校	図書室

◆ 第1回定例研究会報告 ◆

国語科研究会：小学校、中学校からそれぞれの令和6年度校内研究計画について説明があり、その後質疑応答を行った。校種に応じた多様な指導法について知ることができ、有意義な研究会となった。

社会科研究会：簡単な自己紹介を行い、小学校・中学校の令和6年度研究計画について議論を行った。また、小学校・中学校におけるICT利活用の現状についての報告を基に、より効果的な使用方法について検討を行った。

算数・数学研究会：簡単な自己紹介を行うとともに、小学校、中学校ともに令和6年度の研究計画について、資料をもとに議論を行った。一人一研（中学校：中1）に関する学習指導案について、検討を行った。

理科研究会：メンバーの確認を行い、小学校および中学校の研究について情報交換を行った。その後、大学からの話題提供として、「物理・化学・生物・地学の各領域における小・中接続」「天気を題材とした中学校1年次対象の単元開発」を行った。

音楽科研究会：名簿の確認と今年度の活動や学校行事等について情報交換を行った。その後、今年度の研究の方向性について話し合うとともに、次世代ウェルビーイングセンターの活動について紹介した上で、記録等の蓄積を踏まえて実践していくことを確認しあった。

図工・美術科研究会：令和6年度の構成員と年間スケジュールについて確認した。今年度は合同公開研

を担当するため、それをふまえた協同研の場の設定の仕方について検討した。その他、研究奨励費や『クロスロード』の発行に関する連絡や共通の課題に関する情報交換を行った。

保健体育科研究会：今年度の構成員と各学校の研究授業等のスケジュールを確認した。今年度は公開研で保健体育分野での発表はなく各学校の内部での研究授業が行われる。それぞれの研究授業で大学教員と附属学校教員が協力しながら進めることを確認した。

技術科研究会：今年度の構成員と年間スケジュールについて確認した。今年度は公開研で授業公開の担当となっていることから、その取り組みについて共通理解を図り、相互に協力しながら進めることを確認した。

家庭科研究会：令和6年度の研究計画について検討した。公開研では、共通テーマを設定して系統性を考えた題材設定・授業実践を行い、合同で研究協議を行うことを確認した。

英語科研究会：まず、新年度のメンバーの確認と今年度の年次計画を確認した。その後、昨年度の反省と今年度の連携などに関する確認を行った。実習に関する確認、小中連携のための取り組みの成果に関する確認、今年度の課題の共有などが行われた。また、今年度の学会の予定や研究発表の予定などの情報が共有された。

養護教諭・教育保健研究会：今年度はメンバーの半数が入れ替わったため、メンバーの確認と併せてそれぞれ自己紹介を行った。その後、今年度の日程及び内容の確認と、昨年度話題に挙がった視力検査用の備品の検証を教育学部研究推進計画の助成を受けて実施するかどうかの議論を行い、各校で必要が生じた場合に申請することとした。

幼児教育研究会：初回のため、会員の確認と自己紹介を行い、今年度の研究計画と活動日程の確認を行った。その後、附属幼稚園の活動について情報共有及び議論を行った。また、今回の合同公開研では助言者を依頼せず、共同研究者として幼児教育教員が関わることが合意された。

生徒指導・教育相談研究会：初回のため、名簿の確認および簡単な自己紹介を行った。今年度の日程と内容については前年度を踏襲して各校から事例提供を行っていたが、支援の在り方や方針について各自の専門性に根差した観点から討論を行っていくこととした。

道徳教育研究会：名簿の確認を行った。本年度の計画について確認し、今年度は公開研の担当に当たっていることを共有した。小学校では2名（1・6年生）が公開研での授業を実施し、中学校では各学年で1人ずつ授業を設定するため、協議会も2ヶ所設けることで合意した。特別支援学校の公開研への関わり方については別途検討する。

特別支援教育研究会：本年度の計画について確認し、今年度も事例検討を中心にすすめることとし、道徳教育について第1回として、附属特別支援学校栄養教諭より、校内の食育の取り組みについて児童生徒のデータとともに紹介いただき、今後考えられる援助の手立てについて検討した。

共同研究奨励費の第一期分で15件の申請がありました。ありがとうございます。例年より申請件数、申請額が多く、第二期申請分を見込んで、それぞれ申請額より幾分の減額をお願いすることとなります。また、この奨励費についての目的、計画について周知すべきと考えた点でもありますので、申請のみなさまにメールで連絡をさせていただきます。

よろしく願います。

<<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>>

委員長 宮崎亮治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)

発行担当 森本洋介 (morimoto@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.3 (2024.8.23)

◆ 11月13日（水）第3回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:30	附属中学校	未定
社会科研究会	16:10	附属中学校	未定
算数・数学研究会	16:10	附属中学校	未定
理科研究会	16:10	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:10	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	附属中学校	美術室
保健体育科研究会	16:10	Teams	協同研 保健体育
技術科研究会	16:10	附属中学校	技術教室
家庭科研究会	16:10	教育学部	204 教室（予定）
英語科研究会	16:10	付属小学校	第2多目的室
養護教諭・教育保健研究会	16:00（9/4）	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	15:00（10/29）	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	16:10（11/14）	附属特別支援学校	音楽室（予定）
道徳教育研究会	16:30（8/28）	附属小学校	図書室（予定）
特別支援教育研究会	16:15	附属特別支援学校	図書室（予定）

◆ 第2回定例研究会報告 ◆

国語科研究会： 小学校国語教科書（6年）にある新教材「ぼくのブック・ウーマン」について、全員で教材研究を行った。

社会科研究会： 他地域の中学校教諭が実践する IDM 理論を基にした探究・論証の歴史教育について、その内容を把握するとともに、実践に当たってのメリット・課題・予想し得る生徒の反応等について検討を行った。

算数・数学研究会： 11月16日（土）に行われる公開授業研究会に向けて、小学校算数科学習指導案1本、中学校数学科学習指導案1本、計2本の指導案検討を行った。両者の指導案とも、数学的結論がでて終わりとするのではなく、その解決過程を省察し、数学的な見方・考え方を重視することでの新たな問題発見、問題解決の過程が想定されていた。この指導案の具体化のための議論が行われた。

理科研究会： 小学校および中学校における研究についての情報交換を行った。また、学部からの話題提供として、田中浩紀先生が授業において学生に解答させたものをもとにして、学力の定着に関する討議を行った。

音楽科研究会： 今年度の各校のカリキュラムを持参し、今年度の授業内容と研究実践の方向性について報告していただいた。それをもとに、現在の音楽教育の課題について議論し、今年度の研究の方向性について話し合った。また、次世代センターにおけるアーカイブを見据えて、記録を蓄積していくことを確認した。

図工・美術科研究会： 11月の合同公開授業研究会に向けて、図画工作科と美術科の授業構想に関する発表があった。前者は、若木山の視野にある一部の神社の「鳥居の鬼コ」から着想を得た立体的題材であり、後者は動物がその動物らしさを示す特徴的な動きをする様子を捉えて塑像（立体）で表現する題材であった。他教科等との連関、主題、学びの過程や成果の示し方等について検討した。

保健体育科研究会： 今年度の公開研や保健体育科としての発表はなく、各校内の研究授業の領域と対象学年、発表時期について確認がなされた。また、特別支援学校からスポーツ活動について情報提供があった。

技術科研究会： 特別支援学校の農工班の実践についての発表を受けて、土壌の改善などについて協議がなされた。

家庭科研究会： 公開研に向け、題材構想の発表があった。今改訂の学習指導要領では少子高齢化の進展に対応して、家族や地域の人々と関わる力の育成が目指されている。低学年の児童（小学校）や幼児（中学校）と関わる活動を通して、生活の中の課題を適切に解決していく学習内容や展開について検討した。

英語科研究会： 小中の合同授業に関連してSmall Talkの実践方法等に関する議論が行われた。また、研究発表（Small Talk で小中の英語授業をつなぐ実践発表 ― 小中一貫の英語カリキュラム開発のためのCan-do リスト ―）の研究内容が共有され、Small Talkの実践例を学ぶとともに、Small Talkの実践に関する発見や困難に関する情報交換と検討が行われた。

養護教諭・教育保健研究会： 大学教員より、9月に弘前大学で開催される東北学校保健学会に演題登録した、学校の児童・生徒・学生を対象とした研究に関する発表があった。身体活動量の多い学生の性格的な特性や、学校の欠席日数に関連する要因についての発表があり、メンバーそれぞれの専門性や学校種に応じた意見交換がおこなわれた。

幼児教育研究会： 公開研に向けて、今年度新たに記載内容を変更した2週案の指導計画の内容に関しての議論を行った。また、公開研の開催形態や活動の流れに関して提案があり、どのような内容とするかに関して活発な議論が行われた。

生徒指導・教育相談研究会： 中学校から提供された事例をもとに事例検討会を行い、各委員間で意見交換を行った。子どもの支援だけでなく、家庭への支援やクラスにおける対応など、具体的な支援策について活発な議論が行われた。

道徳教育研究会： 研究奨励費の申請内容について検討した。公開研の進め方について、協議会を2部屋に分ける（小6中3は同じ教材、小1と中1、2は教育方法（役割演技・体験的な学習、ホッティングなど）でそろえる）こと、助言者なしで協議会を行う（司会は共同研究者として大学教員が行う）ことなどを決定し、詳細については今後の共同研で詰めることとした。

特別支援教育研究会： 附属特別支援学校教諭2名から、それぞれ「高等部発話不明瞭児が能動的にツールを活用し、コミュニケーションを図ることを目指した指導」及び「知的障害を有する高等部生徒への心理支援～対人関係トラブルの悩みに対する会話の工夫～」の事例について、話題提供があった。ポスター発表形式で事例の分析や意見交換、援助の工夫について検討を行った。

共同研究奨励費 第II期募集期間の延長

共同研究奨励費の第II期への応募がありませんでした。第期応募で支給額を上回る応募があった後に、学部から研究費が追加支給されています。第I期応募は全件採択され、申請額の9割～満額が支給されているため、I期応募に対する追加支給はおこなわず、広く研究奨励を行いたく、第II期の募集延長とさせていただきます。募集時期は9月～11月です。（詳細は追ってお知らせします。）

とりわけ、研究奨励費Cは研究を始めようとする萌芽的な研究に支給されます。後期の研究会、これか

らやってみようと思う研究、研究のために行ってみたい研究会があれば、ぜひ、ご応募下さい。研究は学部教員との共同となっていますが、研究分野によって、どなたに協力を仰ぎたいかわからない際は研究推進部にご相談ください。

＜＜ 協同研究通信に関する問い合わせ先 ＞＞
委員 長 宮崎 充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 森本 洋介 (morimoto@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.4 (2024.11.21)

◆ 11月27日（水）第4回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:30	教育学部	CALL 教室
社会科研究会	16:10	教育学部	4 階社会科共通実習室
算数・数学研究会	16:10	附属中学校	多目的室 1
理科研究会	16:10	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:10	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	附属中学校	美術室
保健体育科研究会	16:10	Teams	協同研 保健体育
技術科研究会	16:10	附属中学校	技術室
家庭科研究会	16:10	教育学部	204 教室
英語科研究会	16:10	教育学部	303 教室
養護教諭・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:10	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	—	—	—
道徳教育研究会	12/4 16:30	教育学部・オンライン	教育科学資料室
特別支援教育研究会	16:10	附属特別支援学校	図書室

◆ 第3回定例研究会報告 ◆

- 国語科研究会：** 中学校の教材「枕草子」「ダイコンは大きな根？」を使って、読書会を行った。
- 社会科研究会：** 附属小での授業実践、特に授業冒頭の「関心の持たせ方」について報告いただき、検討を行った。
- 算数・数学研究会：** 附属四校園合同公開研究会の公開授業に向けて、小学校算数科、中学校数学科それぞれの授業者による発表と質疑応答を実施した。加えて、協議会の進め方に関する資料に基づいて役割分担とタイムテーブルについて確認した。撮影に関する情報共有を行った。
- 理科研究会：** 学部からの話題提供として、日本理科学会第 63 回東北支部大会における発表の再現を行った。附属小学校からは今後の全体研の授業について、附属中学校からは今後の一人一研の授業について、指導案を元に提案があり、それに関して情報交換を行った。
- 音楽科研究会：** 附属小からは、校内で行われる研究授業の概要を木村先生が説明した。附属中からは、学部生の実習報告と 12 月の行事についての説明があり、附属特別支援からは記念式典に向けた現状報告がなされた。その後、質問や意見交換を通じて、今後の見通しを共有した。
- 図工・美術科研究会：** 附属四校園合同公開研究会の公開授業に向けて、小学校図画工作科、中学校美術科それぞれの授業者による発表と質疑応答を実施した。

- 保健体育科研究会：** 各学校での研究授業について、実施済みの授業は報告を、今後実施される授業は単元の内容と実施時期の連絡を各担当教員より行なった。
- 技術科研究会：** 公開研の公開授業の内容について、授業者の中嶋先生から説明があり、研究協議会の進め方と論点について確認した。
- 家庭科研究会：** 公開研に向けて最終打合せを行った。題材の流れと当日の授業内容、児童・生徒の様子、協議会の持ち方について確認した。
- 英語科研究会：** まず、Phonics Function Chart を用いた語彙学習に関する研究について発表・議論が行われた。次に、小中学校での実習や小中連携small talk の実践に関して、状況を確認すると共に改善案を検討した。さらに、中学校からは、一研（公開授業）に関する報告が行われた。そして、令和7年度小学校英語教育学会秋田研究大会に向けて、今後の研究方針を確認した。最後に、学部の佐藤剛先生からwpn を計測する自作アプリのご提供・紹介をいただいた。
- 養護教諭・教育保健研究会：** 教育保健講座の清水先生より、養護教諭養成課程の1年生が履修している「感性保健」の授業の感想を、テキストマイニングの手法で分析した結果についての話題提供があった。「性教育」を学校で実施できるようになることを目的に設定された科目であるが、分析の結果学生自身の関心は「セルフケア能力」に向いていることがわかった。この話題をもとに、学生に「教える」ということに意識を向けようというのではどうか、いつ「教える」ことに関心が向くのか等議論した。
- 幼児教育研究会：** 公開研に向けて、紹介予定の事例を確認した上で、当日の流れや役割分担、協議の進め方や共同研究者の参加の方針を確認した。
- 生徒指導・教育相談研究会：** 附属特別支援学校の先生方より、特別支援学校のセンターの機能を利用した取組の紹介や、教育相談に活用する支援ツールについて話題提供があった。各先生方からも、支援ツールを持ち寄り、多様なアセスメントの観点の共有やケース会議の効率化に向けた論点整理が行われた。
- 道徳教育研究会：** 公開研で実施する5つの授業について検討した。また公開研での協議会の進め方について時間配分や講評・参加者による協議の方法を確認した。10月30日に臨時で会議を行い、大阪成蹊大学の服部敬一先生をお迎えして公開研で行う授業について助言をいただいた。
- 特別支援教育研究会：** 第3回と同じくポスター発表形式にて、附属特別支援学校教諭3名から3本の事例報告・意見交換を行った。すなわち第3回協同研で発表いただいた2本それぞれの発表の後日談と高等部3年の卒後に向けた進路指導・移行支援計画の作成の各発表について、活発な議論がなされた。
- 【公開研速報】**
みなさま、公開研お疲れ様でした。秋晴れの天気に恵まれ、無事に公開研を行うことができました。内部の附属教員、学部、教職大学院教員、教職大学院生等の集計は、まだ、できていませんが、申込レベルで以下のような申込（11月12日）があり、盛会となったと思います。
オンラインに關しても、途中、配信、音声の問題等は若干ありましたが、例年よりもスキルアップして配信できたものと思われます。
さらに、目野田先生のご講演ではテンポの速いトークで世界のこと、学校のこと、様々なヒントが与えられたと思います。
11月27日の協同研では公開研を実施した部会はその総括をお願いします。現在の形の公開研になり、教科も一巡しました。今後の公開研、協同研の在り方についても検討を行わなくてはなりません。時間がありましたら、今後についての意見もうかがえるとありがたいと思います。

配信に関して、Zoom を使った配信を行いました。中学校のライブ配信ではワイヤレスマイクを使用し、クリアな音を届けることができました。また、Zoom の 3 画面による映像は授業分析にとって有益なものでしたが、Zoom の仕様上録画では 1 画面しか録画できませんでした。そこまで思いが至ることがなく、せつかくの 3 画面のご努力を無にしてみましたことを深謝いたします。すみませんでした。録画映像は Teams の研究推進部フォルダにあります。必要な部会は推進部メンバーに声をかけ、ダウンロードしたファイルをご利用ください。広く拡散することは望ましくないので、取扱にご注意ください。

	対面	オンライン	計
県外	18	11	29
県内	28	8	36
市内	16	2	18
不明	1	0	1
合計	63	21	84

幼	4	1	5
小	33	9	42
中	13	5	18
高	3	2	5
大	3	1	4
その他	7	3	10
小計	63	21	84
弘大生参加	93	0	93
合計	156	21	177

教育実践協同研究通信

No.5 (2025.1.14)

◆ 1月29日（水）第5回定例研究会（全体会）のお知らせ ◆

2025年1月29日（水）の協同研は全体会として、以下の要項で対面（およびTeams）にて開催いたします。

時間：16:10～17:30

場所：教育学部2F大会議室 及び オンラインTeams（ALL 教育学部）

【議題】

- ・ 来年度以降の公開研の在り方について
- ・ 各学校園での研究状況の交流
- ・ その他

【共同研究奨励費について】

第2期の再募集を行っています。
本部より追加獲得した分の経費がありますので、書籍購入、研修等で積極的にご活用下さい。
申請にあたっては、学部教員との共同が前提となっております。各部会、研究推進部の学部教員にお声かけいただき、ご活用下さい。

〆切 令和7年1月16日（木）に各校でまとめて事務に提出

◆ 第4回定例研究会報告 ◆

国語科研究会：附属小学校・附属中学校の教育活動（教育実習生指導、校内研）について情報交換を行い、共通理解を図った。

社会科研究会：附属中教員より、クロームブックを用いた実践につき、地理分野における雨温図作成と各地域の特徴に係る授業、および、歴史分野における時代的特徴を踏まえたまちづくりに係る授業について具体例を紹介いただいた上で、質疑を行った。

算数・数学研究会：公開研授業が終わったばかりのタイミングであったため、公開研授業については簡単な振り返りにとどめ、「一人一研」の内容を中心に、報告と今後の実践に関する議論が行われた。

理科研究会：学部からの話題提供として、田中浩紀准教授から、探究についての研究会に参加した際に得られた内容の報告が行われた。また、附属の菅原雄貴教諭から、翌週に行う全体研「もののとけ方」の授業内容について話題提供があり、授業の内容や手法について検討し、意見交換を行った。

音楽科研究会：11月20日に附属小学校で実施された木村教諭による校内研究授業の報告をもとに、質疑応答を行った。報告では、子どもたちが個々の創造力を発揮し、自律的に活動する様子が見られたことが成果として挙げられ、実施後の校内における協議会でも、活動への肯定的な評価と研究への意欲の高まりが見られたことが伝えられた。

図工・美術科研究会：参加者全員が一人5分ずつ口頭で、最近の教育・研究活動に関する報告や課題の共有を実施し、質疑応答を通じた活発な交流が行われた。また、特別支援学校の展覧会の告知や学生の個展などのイベントに関する情報提供があった。

保健体育科研究会：附属小学校6年生を対象に実施されたベースボール型の校内研究授業について報告がなされ、質疑応答を行った。附属中学校では、用具を使った運動の経験の少なさを、それに伴う運動技能の個人差が大きいこと等、ボール運動の課題が挙げられた。附属中学校1年生を対象に実施された保健領域（健康な生活）の校内研究授業について報告がなされ、質疑応答を行った。特別支援学校からは今後の運動に関わるイベントの情報提供があった。

技術科研究会：合同公開研の授業と協議会についての振り返りを行った。プロジェクトベースの題材では、生徒が抱える課題が拡散しやすいため、授業者による課題設定についてのコンテントロールの重要性が指摘され、今後の題材展開の課題が明確になった。

家庭科研究会：まず、合同公開研の授業と協議会について振り返った。授業者から、公開授業、及びその後の授業における原章・生徒の現れを中心に報告があった。小・中が共通テーマのもと、同じ領域で授業実践を行い、合同で研究協議ができたことが成果として確認された。次に、来年度の協同研の方向性について検討した。

英語科研究会：まず、附属小学校での small talk の実践状況をビデオで確認し、実践内容について共有・意見交換を行った。続いて、小中連携の授業について、各学校の生徒の英語能力に基づいて計画を具体化した。最後に、小中連携の軸となっている Can-do リストの改訂点を確認し、ブラッシュアップを図った。

養護教諭・教育保健研究会：教育保健教員より、質問紙のデザインについての話題提供があった。養護教諭は、児童生徒を対象とした生活状況や健康状態の調査を定期的に行っており、その際に留意すべき調査・回答方法、質問文の構成等について理解を深めた。また、令和9年度の全加盟における口頭発表の内容について意見交換を行った。

幼児教育研究会：合同公開研における保育トーク②の振り返りを行い、グループでの議論の内容の共有や、議論された内容を踏まえた保育のあり方に関する議論が行われた。また、再来年度の公開研のもちろち方に関して協議を行うと共に、公開研のない年度に午前保育の公開を行うことに関しての提案があり、来年度実施する方向で合意された。

生徒指導・教育相談研究会：第4回については開催なし。

道徳教育研究会：11月16日に行われた合同公開研の授業および協議会について、公開研参加者のアンケート結果等も踏まえて振り返りを行った。5つの授業すべての内容について観察した方の感想や意見を中心に議論を行った。特に小学校と中学校での道徳授業における役割演技の効果的な実施方法について論点となり、小学校低学年と中学生の両者・観察のそれぞれの役割の効果と困難さについて意見交換された。

特別支援教育研究会：学部からの報告として、玉海士久准教授からDTVP-3（フロステイツク通知覚醒検査第3版）の概要と活用に関する話題提供があり、視知覚のアセスメントとその解釈、さらにそれらをどのように支援につなげていくかについて議論された。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>
委員長 宮崎光治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 森本洋介 (morimoto@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.6 (2025.2.21)

◆ 1月29日（水）第5回定例研究会（全体会）の報告 ◆

2025年1月29日（水）の協同研は全体会として、以下の要項で対面（およびTeams）にて開催いたしました。

時間：16:10～17:30

場所：教育学部 2F 大会議室 及び オンライン Teams（ALL 教育学部）

【議題】

- 来年度以降の公開研の在り方について
- 各校園での研究状況の交流
- その他

【共同研究奨励費について】

第2期の再募集を行っています。

本部より追加獲得した分の経費がありますので、書籍購入、研修等で積極的にご活用下さい。申請にあたっては、学部教員との共同が前提となっております。各学会、研究推進部の学部教員にお声かけいただき、ご活用下さい。

〆切 令和7年1月16日（木）に各校でまとめて事務に提出

◆ お詫びと訂正 ◆

今年度の第5回協同研全体会において、校是を「絆、紡ぐ」と誤記して紹介してしまいました。正しくは「結び紡ぐ」です。重要な文章に関する文言を誤り、ご迷惑をおかけしたことをお詫びし、訂正させていただきます。また、「校是制定趣意」（2020年12月7日）をALL 教育学部のファイルにアップロードし、参照いただけるようにいたしましたのでご覧下さい。下記のリンクよりアクセスできます。

[校是制定趣意.docx](#)

[<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>](#)

委員 長 宮崎 充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 森本 洋介 (morimoto@hirosaki-u.ac.jp)